



THE JAPAN INTERIOR DESIGNERS' ASSOCIATION

26号 (66年8月発行)

- ① 8月の声
- ② 理事長あいさつ
- ③ 理事会報告
- ④ 新入会員紹介
- ⑤ デザインハウス特別展示会
- ⑥ 各事業部報告
- ⑦ 第5回大阪支部委員会報告
- ⑧ ボランタリーチェン
- ⑨ 業界ニュース
- ⑩ 会員の近況

編集後記

日本室内設計家協会

8 月の声

＝ 子供から大人へ ＝

榎 田 均

焼野ヶ原に無秩序に出現した「やみ市」そこには終戦の日本を象徴するかの様に軍用材のスクラップから作られた アルミの釜やらパン焼器等が並べられていました。出発はどうあろうと現在の私達の生活用具とその豊さは市場をみても、家庭をみても隔世の感があります。

その中には企業と商品と人間との関係の中に各分野にわたつての絶えざるデザイナーの活躍を見落すわけにはまいりません。

私達日本室内設計家協会も昭和33年結成以来 8年を迎えるようになりました。そもそもこの会は「会員相互の意識向上と、その基盤を確立することにあつた」と思いますが もう一度自分自身と協会のメンバーという点を考へ直してみる必要があると思われまふ。

個人として

凡そ社会生活を営む私達の社会にあつては純然たる個と組織の中の個を明確に区別して行かなければなりません。申すまでもなく デザイナーという職種はその作品を通じ個性、即ちパーソナリティが一貫していなければ価値がないと言われています。創作活動の中に於ける個の厳しさがこゝにあるわけです。この点は芸術家のそれと全く同一であります、インダストリアルデザイナーは、生産と消費の間にあつてこの個性を貫いて行く立場にありこの点では芸術家の制作活動と異なる点ではないでしょうか。

即ち創作活動に於ける個と社会又は協会等の組織体の中にある個とは混同されると私達の協会の活動そのものも、エゴイスチックな個の中にとじこめられ折角の共通の場を自ら消してしまう結果にならないであろうか。

この具体的な関係は、会費を払っているが、何の御利益もない、例会の通知ばかりが来ても一向に足が向かない。結局一部の人の意見だけで動かざるを得ない、増々個の反影がない為 魅力がうすれる、遂には会費の納入すら矛盾に感ぜられてくる。これは会全体からみれば極めて特殊な例かも知れ

ませんが或る面の事実かも知れません。

脱皮のためには

協会を進めて全体の問題として行く為には個々の条件は勿論色々あると思はれますが組織をもし立てゝ行くための方策は、決つた以上実行し抜くことにつきて思われます。実行し問題を解決して行く行為が、個の中にとじこもつた会員を参画させて行く解決策であると思います。個々が会員としての役割を夫々に自覚し進めて行かねば協会の進歩もあり得ないと考えられます。

地方の特殊性とか、勤務デザイナーであるから、フリーランスだからの問題ではなく、要は協会を進めて行こうと言う比率を質、量とも変えて行く行動性にあると思います。

法人化の問題

理事会提出議題として「デザイン団体の法人格取得」の問題が出されていますが、前記の様な関係にあつては会員の日常活動には一層抽象的な問題として 何んでその必要性があるかの疑問も出ると思います。

ボ一頭に述べた様にデザイナー団体も子供から大人にまで成育して来た段階で今や単なる同好会ではないはずであり、標準仕様書、報しう規定等の作製活動、世界のデザイン団体、機関との連繋等又広く市民にも見て貰う展らん会等にその活動の極めて広い範囲に公益性、対社会性が含まれています。

そこで此の様な社会に働きかけて行く事業を行なうに当り法律で定められた、公益を目的とする社団法人として日本室内設計家協会が認められる必要性があり、それにより国の施策と対応出来たり、行動に一層の拡がりをもて、政府と一緒にやつて行く場合非常に有利になります。デザイナーの地位は一般的には認められて来たとは云え、団体活動、法人的な面では非常に消極的であり過ぎた感をいただきます。従つて行政面からみたデザイン界は子供でしかあり得なかつたとも云えます。J E T R O 移転にともなう新事務所問題等も此の辺に鍵があつた様に感じます。 今や私達は行政は役人、デザインは俺達だけのなへい鎖性から脱皮して積極的に公益法人としての協会を創り上げて地についた活動に向つて一層の努力を積重ねるべく諸兄の御協力をお願いします。

新理事長あいさつ

理事長 中村圭介

先般の理事会で私が理事長に選出されました。前任者の狩野理事始め今までの理事の方々に比べると若年で経験も浅く本当に協会を代表する人として適当であるかどうか問題があると思うのですが理事の皆様始め会員の皆様の御協力により無事に一年の任期を果せば幸いと思います。

協会も発足して満8年を経過しインテリアデザインという職業がまがりなりにも確立されてくるに従って我々の対社会的責任も大きくなってまいりました。

先般ノルの展覧会を拝見しましたがこれだけの高い技術水準がありながら一般の家具との差があまりに大きいことが反省されます。これらの問題を解決するには会員個々の力では限界がありデザイン界全体の力を協会に結集して業界を指導できるだけの力を持つことが大切です。

今年は今迄企画されながら果せなかつた年鑑を発行するとともに法人格を取得し親睦会的な組織からデザイナーの社会的任務が果せる社団法人として再発足する準備を進めたいと思います。

社団法人となるためには新たに発起人を選び定款の目的を始め多少の修正を行い監督官庁である通産省の認可を必要とします。

事業活動も会員だけを対象にした事業よりも会員外のものも参加できる公益性を持った事業が主体となる必要があります。これによつて会の活動も活潑になり社会的な任務も大きくなることゝ思います。

会の社会的信頼を高めるのは結局会員1人1人の活動が基礎になるものといえるでしょう。どうか皆様の協力を得て理事会が私にあたえた任務が果せるようによろしくお願い致します。

☆☆☆ 新理事長に中村圭介氏決る ☆☆☆

《当協会法人格取得めざす》

41年度第1回理事会報告

日 時 = 7月23日，24日

場 所 = 伊豆 天城荘（川島織物寮）

出席者 = （理事）

豊口克平，狩野雄一，山口勇次郎，中村圭介
榎田 均，竹内 篤，森岡 正，川崎 浩
渡辺敏雄，飯田俊彦，

（支部委員）

坂田種男，白石勝彦，柏原秀夫，岡村 実
岩瀬要三（監事）

委任状 = 理事委任状4票 支部委員委任状3票
（全国理事定数15名＝東京9，大阪5，
九州1）

41年度第1回理事会が7月23日，24日両日伊豆の天城荘で開かれた。
今回の理事会は今年3月に決定した41年度事業方針（会報23号）にもと
づく，今日までの活動経過報告と，理事長選出並びに今後の活動具体案を検
討するために開催された。

A．事業経過報告

1）中国視察団の派遣について（中村理事報告）

40年11月中国建築学会宛視察団派遣についての希望を当協会より
発信，41年2月〔視察団を歓迎する〕むね返信あり。当協会が中
心になりJIDA・クラフトマン協会の参加を得，三団体の名前で視
察の時期・人員等具体的内容をまとめ41年5月発信した。

以上の経過，今年9月予定であつた視察団派遣は時間的に困難である
ため，中国建築家協会の返事を待ち派遣時期を再検討することになつ
た。

2) 出版委員会 (豊口理事報告)

永年・出版委員会 選考委員会の努力によりその内容も決り (会報 23 号参照) 美術出版社との打合せ中 出版社社長の飛行機事故による死去で急変した。其の後多少内容に手を加え、現在三一書房と交渉中で見透しは明るい。

3) 標準仕様書委員会 (竹内理事報告)

40年度迄は各団体、会社の実際例を收集整理を行つた。今年度東京支部は家具をテーマに、一般材料分科会、工法面を椅子分科会・箱物分科会の3班にわけ活潑に動き始めた。一般仕様、用語の統一、パテントの問題も合せる班合同会議で検討することになった。

又大阪支部は敷物、カーテンを中心にした内装の研究を積極的に進めることを確約した。

将来の方針として、各支部の研究が進んだ場合、各支部専門委員が合同会議をもち協会制定標準仕様書の発刊まで努力することが決意された。

4) 広報部会 (榎田理事報告)

新たに設置された部会で、本部会が会報を中心に会員相互の交流と正確なインフォメーションを推し進めるための、本部事業であることが確認された。具対的には本部長と各支部に副部長を設け、会員の声と活動を積極的に会報にとり上げる。又各支部事務局は本部事務局に毎月の委員会・専門委員会の経過を報告し、本部はそれをまとめ広報部に提出することが決められた。

5) 事務所移転について (榎田理事報告)

会報 25号 11頁に報告ずみの如く、J E T R O 内部に移転することは残念ながら中止になった。なお J E T R O 移転に共なうジャパンデザインハウス特別展示会開催依頼について、審議事項で検討された。

6) 決算報告 (岩瀬監事報告)

各支部総会に於て、すでに承認されていることが報告され、審議の結果承認された。

7) 監査報告

事業報告並びに決算報告について疑義ないことが報告された。

B. 審議事項

1) 理事長選挙

候補者として数人の名前があげられ、各支部総会並びに委員会での問題になつた内外諸条件が討議され、出席理事 10名・委任状 4 票が投票された。選挙管理委員白石、坂田、柏原各委員の厳正な管理のもとに開票され、中村圭介氏 11票で理事長に決定した。

2) 本部事業活動の責任者とその任期

今迄も東京支部事業部長が本部事業部長を兼任することになつていたが、その任期が本支部改選時期のずれで事業に支障を来すおそれがあつた。そのため再び理事会で次期責任者が決るまで、前任者がその事業の責任をもつことを確認しその分担が決められた。

(本部事業の責任者)

事務局長 = 竹内 篤,

財務部長 = 中村圭介,

渉外部長 = 狩野雄一, 副部長 = 森岡 正

広報部長 = 榎田 均, " = 野口 茂

出版委員長 = 渡辺 優, " = 川崎 浩

標準仕様書

委員長 = 長 大作, " = 渡辺敏雄

監 事 = 野口寿郎,

依田勇夫

3) 日本デザイン団体協議会について

前理事会で議案の協議会に参加することが賛成されていたが、大阪支部より関西デザイナー団体協議会との関係をどのようにするか質問があつた。

議案の協議会は参加する団体の質的要素を重要視する。又事業として海外関係団体との交流並びに行政諸機関との積極的働きかけをする等の説明があり、当会も大局的立場からこれに参加することを正式に

決定した。なを当会から協議会委員には渉外部長狩野氏と東京支部長山口氏が選出された。

団体協議会は8月9日発足し、発会式は9月12日頃に開催される予定、発会式準備委員会には本部事務局長が参加している。

4) 報酬規定改正について

本規定が制定されて現在に至るまで、社会全般の情勢も変り改正すべき諸事項がでてきている。又当協会が法人格取得後に出てくる問題点もあわせ研究するため、将来は報酬規定改正委員会を設ける必要があるが具対的には各支部が検討し次回理事会に提案することを確認した。

〔現報酬規定の技術相談料並びに旅費規定が次のごとく一部改正された〕

報酬規定(2) 技術相談料

旧規定		改正	
相談料	所要時間一時 間につき1,000円以 上(1時間未満は切上 げ)	相談料	所要時間中始 めの一時間迄5,000 円,その後の一時間は 1,000円以上(一時 間未満は切上げ)

〔旅費規定の表〕

	旧規定		改正	
	日当	宿 泊 費	日当	宿 泊 費
(会 員)		旅 館 3,000円 車 中 2,100円		4,000円
(補助者)		2,500円 1,750円		3,000円

旅費規定(註)の事項

旧規定	改正
註(1) 鉄道運賃には特急	鉄道運賃には超特急・

急行・準急等の料金を 特急・急行・準急等
含む。 の料金を含む。又車
中泊は宿泊に準ずる
ものとす。

5) 賛助会員資格一部変更について

現在までの賛助会員は会の純粋性を考慮し一次メーカーのみ勧誘してきた。併しそのメーカーも実質的に二次メーカー的要素をもつものが多く、今日の協会ではそれによる障害は何等できていない。由に二次メーカーを新たに勧誘しても“良識あるモラル”をもつて資格判定並びにその運営をすれば会の純粋性も保ち、経済的にも豊になるとの論をえた。

具対的には各支部で二次メーカーの資格を研究し、理事会でその判定を定めることを確認した。

6) 会員証発行について（これに共なう値引問題）

本会も設立8年を迎え、其の社会的基盤も除々に確立し且今後の活動が期待されている。そのため本会の会員は会員である誇りを持ち、各自が責任をもった行動をとることを願うため会員証を発行することになった。会員証のデザインは出版委員長の渡辺氏に依頼、完成後は本部事務局が整理統括し各支部事務局を通じ会員に配布することになった。

値引問題には2つの要素があり、①文具・図書の必需品は伊東屋の10%値引が実行されており、今後会員の利益になるものは会として取りあげてゆくことになった。

②、会員が仕事で或一定のメーカーのものを選定した場合、その選定料又は値引価格の基準等の諸問題が具対的にとりあがっている。この問題はこのまゝ放置しておく、我々デザイン界の信用に影響し、又経済が混乱をおこす可能性もある。そのため急速に各支部で調査研究し、次回理事会に提出し結論をだすことを決定した。

7) ジャパンデザインハウス特別展示会について

デザインハウスが9月に移転する場所に、四団体の作品を特別展示

し対外的にデザイン団体の活動をアツピールすることを目的にした催し物である。詳細は別頁を参照

8) 法人格取得について

今日まで本会は会員相互の利益のよう護と、社会に対しては国民生活の文化の向上に寄与するよう活動をしてきた。併し現在までの活動をふり返つてみると、J E T R O への事務所移転問題、著作権審議に共なう立法的諸条件など、法的立場にもとづく活動には任意団体である弱さを如実に感じさせられた。

今後は会の活動がより活潑に発展し、その結果社会に役立ち合せて会員の利益が護られる方向に進むべく法人資格を取得すべきである。具対的には急速に各支部が資料を集め、関係機関に働きかけ遅くも今期中に資格を取得するようにする。

9) 新入会員審査

東京支部より 箕原 正、 本田正枝、の2名の書類が提出され、審議の結果両名共承認された。(詳細は新入会員紹介覧)

10) 其の他の事項

a、現在正会員でデザイン業務を行っていない会員については、会員規定の「特別会員は室内デザイナーにして現在他の職掌にある者とする」の項目に適合するので、各支部の実情に応じ支部委員会と該当者との話し合いで決め、その手続を取ることにした。

b、入退会の事務手続きは、各支部事務局が窓口となり本部事務局に報告し、本部事務局は会員に直接連絡しないことを確認した。

o、会報・定款・名簿など会の書類の体裁を一定に整えフアイリングしやすい様に研究する。

以上、(竹内記)

新 入 会 員 御 紹 介

正会員（東京）

みの はら たかし
箕原 正

（昭和4年7月18日生）

有限会社ビジョンプロダクション及び箕原正デザイン研究所の社長としてのデザイン活動は、松屋のグッドデザイン展に於けるスタツキングチェア等で既に御存知の方も多いと思います。

昭和27年に東京美術学校（芸術大学の前身）油絵科を卒業され、それ以来フリーデザイナーとして、上記事務所を経営現在に至っています。

推薦者は長大作・野口寿郎の両正会員で「殊更に仕事の面について何かと取上げる必要のない期界の実力者です。……通俗デザイナー意識から離れて仕事をしていた一匹狼が我々の集団に何を提供されるかゞ楽しみです」と推されている。作品としては京都国際ホテル・三井クラブ等が提出された。

正会員（東京）

ほん だ まさし
本田正枝

（昭和9年4月9日生）

昭和32年に女子美術大学図案科，35年に東京英会話学院をそれぞれ卒業，32年より37年迄白木屋設計部勤務，以来大丸室内装工部に勤務され，デザイン活動を行はれている女性デザイナーである。

正会員池田武彦・榎田均の両氏による推薦で特に池田氏は白木屋時代のライバルであり「大丸に入られてから増々みがきを掛けられ，立派な制作活動を続けられて居られ，……女性としてもキメの細かいデザインはインテリア界に一つの期待をいだかせる」と推されている。

ジャパン デザイン ハウス

特別展示会について

ジャパンデザインハウスの移転を記念して 9月12日より22日まで
デザイン団体協議会 に加入する 4団体 (J.I.D.A . クラフトマン
・ パッケージ・ 室内) の特別展を開催することになった。

この展示会は 各団体の活動を広く関係方面にPRするもので 協会とし
ては 協会の 活動状況や 組織状態を示すパネルや 船舶 飛行機 展覧
会 住宅 公共建築など インテリアデザイン活動を紹介する パネルを展
示する ほか 家具デザインの プロセスを紹介する 現物 展示を行うこ
とになった。

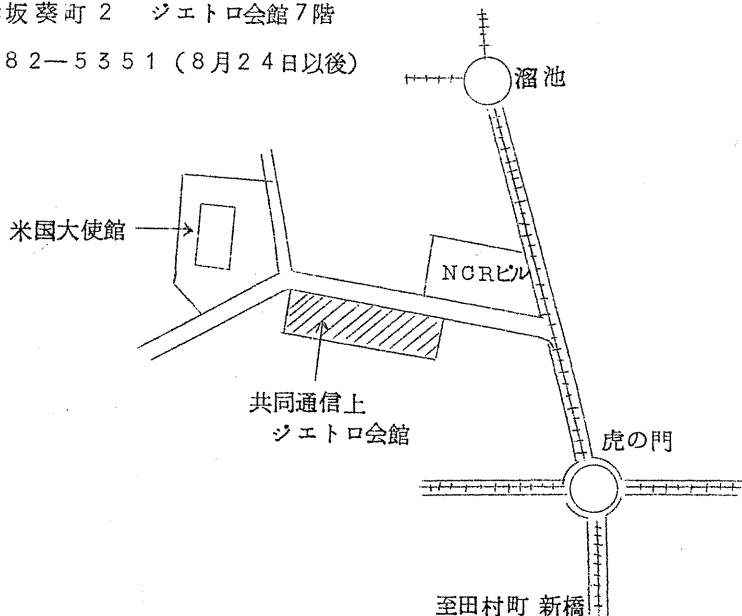
作品の選定は 年鑑や 最近のコンペ などの 会員の作品から 選ぶ予
定で 狩野・山口両理事に一任した。

他の団体も 大体同様の企画で デザイン関係団体が 協力して展示会を
開くのは始めてである。

会場 ジェトロ新事務所

港区赤坂葵町2 ジェトロ会館7階

582-5351 (8月24日以後)



事業部報告

＝A. 標準仕様書委員会報告＝

昨年まで特にとり上げるほどの成果をあげ得なかつた標準仕様書委員会も、今年度はようやく活潑に動き始めました。

委員会開催に当つて次のような推進方針をたてました。

1. 内容を家具製作工事，室内装飾工事，船舶，車輛等内装工事に分ける。
但し家具製作工事を東京支部で，室内装飾工事を大阪支部で担当し，船舶車輛等内装工事は今回は保留にする。
2. 各工事毎に主要項目の整理を合同審議し，その後各項目毎に分科会を設けて分散審議する。分散審議に当つては推進役として委員長が出来る限り出席する。
3. 分散審議するための分科会の各委員は夫々互選をもつて各分科会毎に世話役を決める。
4. 5～6回の分科会毎に合同委員会を開き，相互の関連性，表現方法の統一，字句，用語の統一等につき討議する。
5. 委員会での作業状況，審議内容等は月例会乃至は総会，及び会報で逐次全全会員に報告するようにする。

以上によつて第1回合同委員会を開催しました。 7月6日 於 事務局

出席者：竹内 篤，鎌田浩三朗，西海健彦，田中聰行，中村圭介，織田武己，梶谷通男，鹿毛宏一，長 大作

竹内委員より前回までの経過報告があり，長より前記推進方針について説明の後，主要項目について審議しました。

その結果 a 一般共通事項，b 一般材料，c 箱物卓子類，d 椅子類という分類を取敢えず採択することにしました。

但し一般共通事項については各項目の審議完了の時点で合同討議を重ねて決定することとしました。

次に各分科会の世話役を出席者間で互選し，その結果前に集めたアンケートを含めて次のように各分担が決りました。

(——— は各分科会の世話役を示す)

委員長：長 大作

一般材料：西海健彦，鎌田浩三郎，荒川 清，鈴木誠太郎，梶原敏夫，
高須英彦，森田良夫，渡辺輝男，広田長治郎，漆原美代子，
野水ユキコ，鹿毛宏一，及川洋功，

箱卓子類：鈴木慶一，織田武己，中村圭介，清水 武，村尾平格，小林
保治，小菅澄男，村松洋雄，

椅子類：田中聰行，伊藤利一，熊井七郎，島田良一，土屋晃一，佐々
木英二，西沢圭三，長沢精一郎，梶谷通男，

次に各分科会の状況を報告します。

一般材料分科会（第1回） 7月14日 於 事務局

出席者：西海健彦，鎌田浩三郎，梶原敏夫，渡辺輝男，鹿毛宏一，
長 大作

主として分類目次の整理に重点を置いて作業が行われました。

箱物，卓子類分科会（第1回） 7月22日 於 事務局

出席者：織田武己，小菅澄男，清水 武，長 大作

主として分類目次の整理に重点を置いた作業が行われ，材料的なことよ
り工作的なことを中心にまとめることに方針を決めました。

椅子類分科会（第1回） 7月26日 於 事務局

出席者：熊井七郎，田中聰行，伊藤利一，竹内 篤，佐々木英二，島田
良一，土屋晃一，長 大作

他の分科会同様分類目次の整理を行いました。

一般材料分科会（第2回） 7月28日 於 事務局

出席者：西海健彦，鎌田浩三郎，高須英彦，鹿毛宏一，長 大作

前回に引続き項目の分類整理を重点的に審議しました。

以上のように，かなり活潑に作業が始まりましたが経験豊富な会員諸氏の出席が少なく，審議が思うようにはかどりません。各分科会委員の方々は勿論，委員以外の方々も夫々得意の分科会に出席されて豊富な御意見をお出し願いたいと切望して居ります。

(長)

＝B．月例委員会報告＝

6 月月例会 パネルディスカッション「インテリアデザインとは」

司会 倉林 氏

パネリスト 三宅 氏

西海 氏

水之江 忠臣氏

まずパネリストからそれぞれの立場からインテリアデザインをどう考えて具体的に仕事を進めておられるかの話があつた。

三宅氏 自分は建築家でありインテリアデザイナーでもあるが、建築家が建築を考えるプロセスでまずプランニングをするが、それ自体がインテリアデザインであり、建築家とインテリアデザイナーとを区別すること自体がおかしい。しかし現状ではほとんどの計画は建築家によつてなされ、最終段階になつてインテリアデザイナーにバトンタッチされるので当初の意図や計画とは無関係にデザインがデコレーションとして進められる場合が多い。これは本質的にはおかしいことで、当然計画から完成まで協同して行はれるべきで特にディテールにおいてはデザイナーが優先すべきである。

西海氏 実務としては建築と室内設計とを分離してやらなければならない状況が多いが、終局的には完全な住みよいものとするべく計画している。現在どういう風な形でインテリアデザインをするべきかというきまりははつきりしていない。しかし今われわれが直面している設計料とか契約の問題などを検討しているうちに、方法論は解決していくのではないかと思はれるので、その方向にしたがつてディスカッションが進められることを望んでいる。

水之江氏 インテリアプロダクトはあくまで商品でありそれは受注デザインと既製デザインとに大別される。その商品の使われる場所や、デザイン・製作に必要な期間、販売の対象などの点で大きな相異点があり、経済面と美的要素では同じであるが、既製デザインを進めることの方がデザイン、生産、販売面で合理的であり、ものと人とのコミュニケーションの巾と深さを拡大することによつて、

販売競走におけるトップ商品にまでになる可能性もある。

商品である以上あらゆる階層の人をたのしませるものを作るのがプロとしてのデザイナーの使命である。

以上パネリスト三氏より意見の開陳のあつたのち、個々の問題の補足説明として、

三宅氏 建築家とインテリアデザイナーとの区別は仕事のスケールの大きさの差や、掘下げ方の相異などの点ではつきり出来る。したがってインテリアデザイナーは専門的な職能として成立し得る。

西海氏 同じ課題に対して建築家とインテリアデザイナーとは解決する方法が全然ちがう。たとえば建築家の場合は計算や方程式が先行してあとで色がプラスされるといった考え方であり、インテリアデザイナーの場合は、人間の生活の中の生理的、感情的な問題をベースとして進められる、結果においては非常に似たものであるべきだ、それから家具のデザイン＝インテリアデザインではない。家具のデザインとインテリアデザインとをはつきり区別すべきで同時にインテリアデザインのもつ意味を認識する必要がある。

水之江氏 受注デザインにおける時間の非合理性はデータにより明確である
既製デザインの開発に努力すべきである。

この后ディスカッションに移り、まず狩野氏よりディスカッションの方向として、職能論やデザインの方法論よりはその前に本質的な問題、インテリア論からすべきであるとの動議があり、鈴木(富)氏も同調された。

ディスカッションの中における主な発言の要旨は次の通り。

白石氏 建築とインテリアの関係は全体と部分のようなもので双方とも重要なもので部分を軽視する傾向が今まで強すぎた。

むしろ人間生活に主体性をおいた場合はインテリアデザインが建築デザインに先行すべきである。

長氏 結論を出そうとしないで各自が考えているインテリアデザインに対する哲学的な考え方を発言することによつてたしかめ合う必要があるのではないか。

狩野氏 インテリアデザインとは生活の場を作ることで原始時代では建築

もインテリアもなかつたが次第に分化されて来た。

分化が進むにつれて人間生活のテンポは早くなり逆に建築は科学の進歩により次第に固定化し、その間のギャップは大きくなりだした。そこで建築と人間生活とのギャップを埋めるため、又調和をとる方法としてインテリアデザインが発展してきた。

建築の中で動かせるものと、動かせないもの、新陳代謝の可能な部分がインテリアデザインの対象となる。

鈴木氏 インテリアデザインは活潑だが、ビジネスとしてのインテリアデザイナーの将来は現状では悲観的である。

インテリアデザイン論を積極的に討議して一つのわれわれの理想像を作りそれを目標としてそれをどうやつてからとるかが重要なことだと思う。簡単に結論の出ない問題だが何とか結論を出したいものである。

桜井氏 インテリアデザインとは何かと定義づける必要があるだろうか？
(近藤忠) IDとインテリアとでは対象が異なるだけでデザインの本質としてはあまり差がないように思われる。インテリアデザイン論について非常にむづかしいといわれるがその点がわからない。

島崎氏 職能団体の中で行われるディスカッションとして共通のボキャブラリーを持たなければならない。同じインテリアといつても各自の概念が千差万別であるので、共通のボキャブラリーとしての定義づけはディスカッションの方法論としても必要である。

西海氏 デザイナーと医師との共通点は医師は人間の生命を健全にする手段であり、デザイナーは人間の環境を精神的にプラスにする手段であり共にアイデアで仕事をする、又設計料の考え方も診察料と共通点があり

これより医学論争となり臨床医学、予防医学、精神衛生などに発展した。又西海氏よりインテリアデザインよりもリビングデザインとよぶべきであるとの発言があつたり、狩野氏より空間論から振り出しにもどつて討議すべきだとの発言もあり、いくつかの問題点を残しながらも26名という参会者を得て盛会であつた。

(文責 月例会委員 白石)

第5回 大阪支部委員会報告

日 時 7月29日(金) 18.00 ~ 21.00

場 所 新阪急ビル 12F スカイルーム・会議室

出席者 森岡・野口・柏原・岡村・袴田・飯田・依田(荻野)・
池本・松宮

☆経過報告

事務局 ○ 7/23 ~ 24 日理事会

(飯田) ○ 29日榎田理事(東京)来阪, デザイン・ハウス・デザイン
展・広報部活動・年鑑出版経過の連絡あり。

○ 29日東京支部月例会案内及び岩瀬監事より来信。

財務部 ○ 淡路町郵便局に振替口座認可あり(大阪27546?)。

(荻野) 8月見学会案内に会費納入促進と共に通知する。

事業部 ○ 7月の例会としてフアブリック・メーカー展示会見学による
(森岡) 合同討論会を計画したが, メーカー側が当日多忙なためと,
各メーカーが合同で討議することに対し難色を示し, このた
め中止となった。

☆ 8月6日改装なる大阪ガスビルの見学会を15.30より実施
し, 見学終了後, 中村理事長に東京からお出で願い, 当協会
の法人格問題について説明会を聞く。

☆ 8月下旬の月例会は「女性デザイナーとの懇談会」(予定)
を推進, 8月初旬の委員会に報告する。

☆ 9月の月例会「デザイナー学生との懇談会」(予定)につい
ては早急に基本方針を決定, 学校へ案内状を出すこと。(野
口委員より要望)

総務部 ○ 本日組織強化委を開催スタートする。

(野口) ○ 正会員1名, 準会員1名の入会申込書を受付。(森岡委員長
報告)

○ 会員の利益増大のため, 洋書取扱店「東京ブックセンター」
に交渉中。(森岡委員長)

☆理事会・合同委員会報告及び確認

- ・別紙事項を報告（飯田事務局長）

☆「設計報酬規定の問題点摘出」は月例会などを利用してフリー・デザイナーの意向・問題点を求め、次回理事会までに摘出する。

☆「会員証によるデイスカウント・セール」については東京ブツクセンター（洋書10％，和書5％予定）が有望なため、これを推進する（森岡委員長）。事務用品として土井福応堂・河内洋画材店・丹青堂があるが、河内屋について交渉する（松宮氏）。

☆「ジャパン・デザイン・ハウス展」について、本日東京より来阪の榎田理事より、大阪支部の具体的な要請があつた。

東京よりの要請

飛行機内装（YS-11）

船舶内装

} 写真（JETROにて3'×3'に引伸し）

キャビネ判

YS-11については大丸にて準備する。船舶については高島屋・大丸・宮崎木工にて選定、東京へ送付する。

☆支部会員の募集計画案検討

- ・大阪支部設立以来9年間積極的に会員増加の方向を取つてこなかつたが今年度の方針によつて運営したい。この1～2ヶ月の経過より見ても積極的に行えば加入者を得られるので、計画によつて推進したい（委員長）。
- ・グループ別に適格者をリスト・アップし、グループ毎に説明、説得する方法もあるが、やはり個別に説得する法が効果的であると思われるので、これによる。

☆グループ別に適格者とアタック担当者を決定し、会の性格、内容などを説明すると共に入会手続、必要書類などを充分説明する。

☆入会勧誘は引きずり込むのではなく、充分に会の主意を了解し、一緒にやつて行く意志のある者に入会してもらうこと。

☆分担

京都地区（担当：野口・松宮・沢野）

富田・九後（高島屋・京都支店）・迎井（大丸京都店）・木下・島本（宮崎木材工業）・米田（匠屋）・村田（川島織物）・下村（内

外織物），以上正会員候補者。

大阪地区

大丸（担当：川崎・木村・池本）

正会員 堀沢・笹谷・竹中・安永・杉正。

準会員 安藤・木上・横田・酒井

高島屋（担当：森岡・飯田）

正会員 橋本・太田・中村・福原・後藤敏・大霜・坂本

準会員 秋田・浅田・山内・大久保・井関・福井敏・後藤勇・田
村・岡崎・新川・生駒・米村・井垣

阪急（担当：上辻）②二井 十合（担当：野口）②箕島

日建（担当：岡村）②永田・平井・伊吹。②中小路

工作所（担当：森岡）②藤野。 フリー（担当：森岡・野口）尾
畑・水口。

学校（担当：森岡）②大竹

神戸地区

川重（担当：野口・種村）②吉田

三菱（担当：樋口）②田中弥・飾磨・堀金。

学校（担当：樋口）②菅原・南原。

大丸（担当：川崎・池本）②山中・山崎。

川車（担当：野口・樋口）②米光。

近車（担当：野口）②佐藤

飛弾高山

飛弾木工（担当：森岡）②葭原。

西ドイツ家具ボランティアチェーン

——ムスタリングについて——

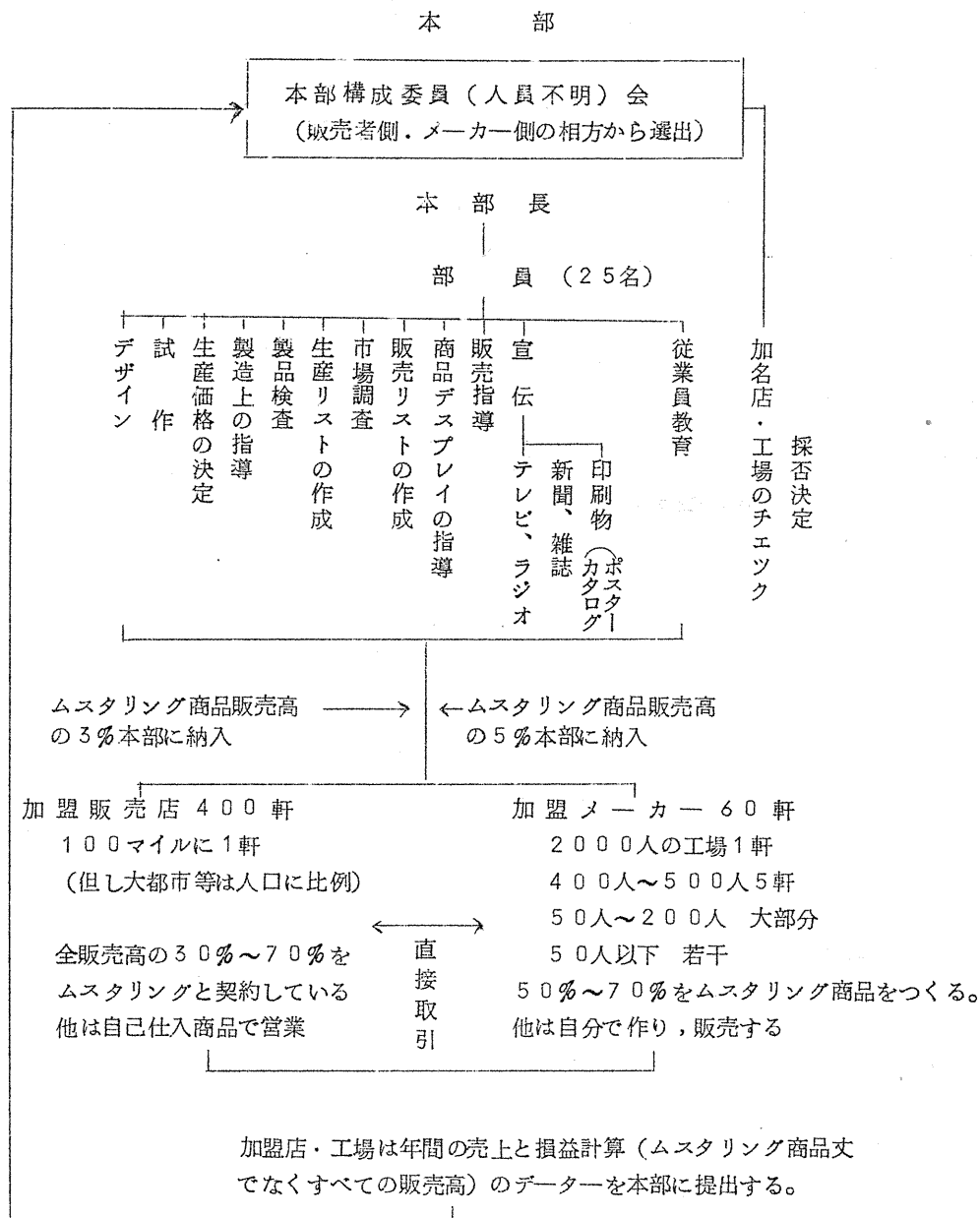
渡 辺 輝 男

ボランティアチェーンはアメリカで1888年小売店協同組合から発足、1920年大規模小売業者に対抗するためにその防衛策として急速に発達したものと云われています。

最近日本の家具小売商の間でもこの機運が盛んになり、日の出チェーン等の組織がいくつか出来始めていますがまだ本格的なものとは云えない様です。此度欧州旅行に際し西ドイツの家具ボランティアチェーンの一つである“ムスタリング”の本部及び工場・販売店を訪れる機会を得、大体の機構を聞くことが出来ましたが、日程の都合でほんの上辺丈しか判りませんがなにかの参考になれば幸いです。

“ムスタリング” (Musterring) は西ドイツ中部のウエンデンベルグに本部があり、1937年 HEIRICH WONNEMANN と云う現在寢室家具工場の社長が創立したもので、彼はもと建築及家具のデザイナーとして数人で設計事務所を開いていましたが氏のデザインによる家具を販売ルートに乗せるため試作工場を造ると共に販売店の有力者である KARL HUBNER (カール・ヒューブナー) 社長でドイツ上院議員のタークリット氏の協力を得て組織したと云われています。

現在は販売店400軒(内288軒が中部ドイツにあり)、工場60軒が加盟して居り本部は25人の充分その道に通じた人達によつて運営されているそうです。(下図参照)



本部はデザインが出来ると、市場調査その他の検討を加えてから試作にかかる。試作は15名のハンドワーク工場で行い、形、強度、市場性、価格等あらゆる面から検討を加えてのち、生産価格、販売価格を決定し60の工場のうちから適応工場を選び生産軌道にのせると同時に販売者との契約を結ん

でやり生産数量等の計画を造つてやる。

形はモダンなものが70%位でよいデザイン，よい品質，安価をモットーとして60軒の工場で作られたもので各種の完全な部屋作りが出きる様になつてゐる。

組織は国際的で東ドイツ，オーストリア，オランダ，スイス，フランスの各国が加盟しているが，各国は夫々独立して本部を持つてゐるとのこと（但しドイツの総本部との連絡その他については不詳）

ムスタリングでは工場・販売店共契約は一年で30%以上各自の許容量によつてムスタリング商品の製造・販売を決めているが年々多くなつてゐるとの事。

ムスタリングでは加盟店は他の組合リングに入ることは出来ない。又価格は絶対にダンピング等をしてはならない規則になつてゐる。

大体以上ですがこゝで注目できることは普通ボランタリーチェーンとは小売店の組織であるのにもかゝらず，ムスタリングでは工場・販売店が同格でリング員になつて居り，しかもその本部創立者がデザイナーであることだと思います。これは家具と云う特殊な企業を非常に合理的に組織作りをしていることです。吾々設計家協会がこの点を参考にして中心となつて家具業界をリードして行けたらと思う次第です。

☆☆☆ 国産ノル家具展 ☆☆☆

世界の高級家具“ハーマンミラー”およびノルの製品が日本国内で本格的に製造されることになり，業界とくに高級脚ものメーカーの間でこれら“国産舶来家具”の市場に与える影響が懸念されている。

昨年ノル社と技術提携した西部百貨店系の国際インテリア（株）は，約150種の国産ノル家具の検査を終り7月末赤坂プリンスホテルで一般展示された。8月から本格的販売に踏みきる一方，2年前からハーマンミラー製品の国内独占販売を行つてきた伊勢丹百貨店系の（株）モダン・フアニチアーセールスが新たに八社と技術援助契約を結び，新工場を建設してハーマン家具の本格的製造を開始した。

このショーは家具業界や吾々デザイナーにも大きな問題を投げかけておりこの会報でも詳しく討議を行いたいと思つております。会員の方々のご意見をお待ちします。

業界ニュース

〇〇〇 剣持勇氏のデザインを米国商社が盗用 〇〇〇

7月16日付読売新聞の報道によると、ニューヨーク近代美術館に現代の代表的なグッドデザインとして常時展示されている、剣持勇氏のデザインになる、だるま形の藤椅子二種が、アメリカ商社がそつくり盗み、大量販売ルートに乗せ、しかも半値以下の値段で販売していると云う事である。この情報は米国に於ける輸入元であるニューヨークの有名家具商社ジョージ ジェンセンより、製品メーカーの山川ラタンに知らせがあったもので、デザインの盗作、模倣に対する社会批判が高まっている折でもあり、一つの事件として問題になっており、通産省検査デザイン課のデザイン業務班で取り上げ対策を進めています。

〇〇〇 '67 川島織物インテリアー ファブリック展 〇〇〇

例年の通り、株式会社川島織物ではカーテン地、椅子張地、壁張地、敷物等のインテリアー テキスタイルの新柄製品の総合展示会が、東京、大阪を始めとした、下記全国主要都市5ヶ所に於いて、盛大に開催された。

- | | |
|----------------|---------------|
| ・大阪会場 住友生命本町ビル | ・札幌会場 札幌商工会議所 |
| 7月13日～14日 | 8月2日～3日 |
| ・福岡会場 九電記念体育館 | ・名古屋会場 竹中工務店 |
| 7月16日～19日 | 名古屋センタービル |
| ・東京会場 東商ビル | 8月4日～5日 |
| 7月21日～22日 | |

〇〇〇 "ドムス66" 展示会開かれる 〇〇〇

最近、住生活への感心がますます高まり、文化的な生活が地域の差なく行なわれる様になり、インテリア製品の置かれる位置はきわめて重要になってきている。

ドムス（装柔株式会社）では、広い視野で豊かな生活へのビジョンを高め人間的なより生命感あふれる住生活に少しでも奉仕できる様なインテリア製品を目的に"ドムス66"の展示発表会が去る7月20日～23日港区久保明舟町のドムスショールームで、関東にあまり知られてないドムスのPRも兼ね開かれた。

カーテンはドムスドレープとカネボウドレープで構成され200点余り展示され前者レーヨンものが少くカシミロンやベンベルグの素材の新しいものでドレープ調の厚手のものが多く後者は無地及びプリントがほとんどでプリントは従来の花模様のなものに対し幾何学的なパターンが多く、一つのパターンで30種類ものカラーを用意されたものもいくつかあった。

一方カーペット関係ではシャギー、ウィルトン、マット関係が50点程展示された。

この会場は100坪余まりで、アメリカ大使館の近くにあり今は常設展示場として何時でも見られる様になつてゐる。

これは一寸余談にはなるがグラフィック関係における徹底したデザインポリシーはなかなかのものである。

〇〇〇'66 オリジナル ファブリック ショー〇〇〇

内外織物株式会社，協賛三菱レイヨン株式会社による，カーテン地，壁張地，敷物，椅子張地等の新作発表展示会が，大阪，東京と会場をうつして開催された。 大阪展示会 国際見本市会館 7月26日～27日

東京展示会 産業会館 8月 1日～ 2日

〇〇〇カラー ライフのためのカーテン，カーペット展〇〇〇

兼坂商事株式会社による，'66～'67 キロニー カーテン，カーペット等の商品展示会が8月2日～3日東京東商ビルに於いて開かれた。今回は特に“色には目的がある”と云うキャッチフレーズを打ち出し，一般への色彩に対する関心を高めるための意図がうかがえた。

〇〇〇土と火のインテリア植木末魚子陶器デザイン展〇〇〇

建築の内と外に焼物の用途の可能性を求め，形態，材料，製作工程にいたるまで改めて考え，・インテリア，エレメントとしての陶器，・ガーデンプランニングにともなう陶器，・陶器によるリビング，デザイン等，新しい対象を追求する，植木末魚子デザインルームの個展が東京では8月8日～12日，日本橋丸善画廊，大阪8月17日～21日難波高島屋に於いて開催された。

会 員 の 近 況

長 大 作 (坂倉建築研究所)

- 勤務先住所が地番変更になりました。

新住所名 港区赤坂9丁目5番12号

榎 田 均 (通産省)

- 大阪繊維意匠センターに「Gマーク」の審査説明のため出張, ついでに大阪支部長森岡氏と打合をした。

藤 原 庸 弘 (三重大学)

- 25坪住宅完成 (S教授の家)
- 喫茶店工事中

伊 藤 利 一 (コスガ)

- J. F. S. (日本家具ショウ) 於晴海2号館にアルミ家具展示 (第一部)

中 井 太一郎 (フリー)

- 住居表示 下記に変更になりました。
- 新住所名 杉並区方南2丁目4-23

佐々木 英 二 (石川島播磨重工業)

- 7月31日より下記に転居します。

転居先 横浜市港北区恩田町5983

桜台団地 635号

桜 井 定 雄 (日本室内設備工業)

- 中生コープ ブロードウエーセンター内 割烹クラブ「花むら」設計中 8月中旬施工に入る 10月1日開店予定

鈴 木 富久治 (フリー)

- 家具産業誌「デザインアラカルト」

(1) デザインブーム 5月号

(2) IDにおける協同 6月号～7月号

(3) デザイン教育は18才から 8月号

(4) もうけるのは先生でない 9月号

フアニチュア誌 9 月号

「首級をあげられた日本家具業界」等執筆 皆様の御批判
をいただければ幸いです。

鈴木 慶一 (太陽スチール工芸)

- 赤坂 喫茶塩生設計完了
- 勤務先変更 太陽スチール工芸 K K

品川区小山台 1-4-20 TEL 712-2937

大和 勝太郎 (フリー)

- 東光園ショッピングセンター及びカクテルラウンジ

村松 洋雄 (生和木材工業)

- 山崎パン松戸女子寮各室インテリア
- 第一生命修善寺支部内装工事設計, 製作, 管理
- 国立静岡病院新築工事に伴う内装工事の設計及び打合せ
7月21日~8月10出張

大橋 滋男 (志沢)

- 勤務先変更 K K 志沢 (百貨店) 家具部
平塚市新宿 1130
- 自宅転居 藤沢市片瀬 2517 東荘

斉藤 英夫 (三越)

- 全家工連主催 フアニチュア ショーの審査会が 8 月 3 日
開かれ 審査委員として本協会員では豊口克平氏, 長大作
氏, 榎田均氏, 光藤俊夫氏と共に参加し 家具メーカー団
体としての第 1 回展に協力した。

編 集 後 記

公報部が設立され日も浅くまだまだ満足のいくものが出来ず毎日あれこれと研究しております。私も初めての原稿依頼、何もかも初めての初仕事に督促のむずかしさに痛感しながらハツスル。

その結果のたまものがこの様な一冊の会報として出来上りました。会員の方々も色々と批判なり意見を寄せて戴きフレッシュな感覚でさらに飛躍し前進したいと思つています。今後の公報部の活躍に御期待下さい。

猶 次号より事業計画表のとおり(24号記載) 隔月出版になり油の乗りかけたところで一息抜かれる様な感じになり委員一同多少はがゆさをおぼえます。(高 橋 記)

追 記

会報に関するアンケート

公報部会では会報がどの様に利用され、今後に何を望むか、広く会員の諸氏の御意見を聞きたいと思い 来る9月15日までに下記の方々は本部迄連絡下さい。今後の編集方針に盛り入れたいと思います。(サンプリングはランダムによりました。猶東京支部以外ははがきで回答下されば幸いです。書式は自由)

浅利 弘三	池本 要	木村健二郎	河端 二郎
荒川 清	伊藤 得時	前田 邦夫	松浦 弾
藤原 康弘	池辺 武彦	楠本 厚	村尾 平格
堀内 浩二	倉林益太郎	加藤 昌一	宮内 順治
森谷 延周	中井 太一郎	峰尾 武	西海 健彦
西沢 圭三	大川原 清	大橋 正介	清水 武
鈴木富久治	佐々木達三	佐藤 守男	鈴木誠太郎
鈴木 曉	玉田 郁朗	高須 秀彦	土屋 晃一
有川 勲一	船戸美知子	鹿毛 宏一	大下佳代子
佐藤 雅子	赤木 満	福岡喜久雄	合田 正甫
三上 泰伸	鍋谷 外茂男	幸重 篤典	小川 欣一

